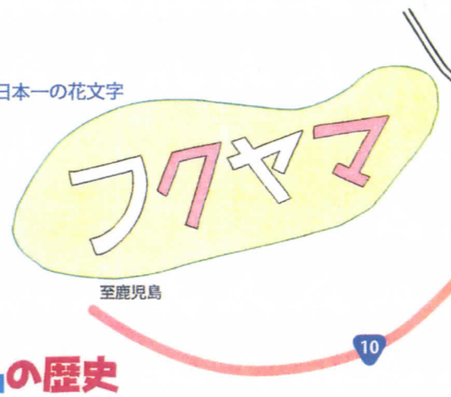
霧島市市民活動支援事業

# 福山まるごと博物館
# 霧島市福山町 ぶらーり酢っきり散策マップ 海岸編

## 秘話 福山酢の誕生

福山の酢は文政・天保時代に、薩摩藩の財政改革の一環として大量生産されました。藩はご禁制品の「寒天」を密造して中国・ロシアなどに密売しますが、原材料の酢を福山で生産して寒天工場のある日向の高城・山之口に運びました。寒天製造・密売を指揮したのは家老「調所広郷」でした。壺を伊集院美山の薩摩焼で作らせ、酢の生産を福山の「竹之下松兵衛」に担わせました。また、寒天材料のテングサの搬入と寒天製造の支配人、密売を指宿の海商人「濱崎太平次」に命じました。広郷は太平次の大型船着岸のために、肥後の石工「岩永三五郎」を呼び寄せ、港の護岸と地頭仮屋の石垣工事をさせました。石垣にはアーチ式の水汲場2ヶ所も設置されています。三五郎はその後、腕を見込まれ薩摩藩の作事方に招聘され、甲突川5石橋建造などを手掛けることになります。福山での工事金を負担したのは豪商「厚地家」でした。福山酢の誕生は幕末時の薩摩藩一大プロジェクトの一環でもありました。福山酢は現在、健康食品として全国にその名を広げています。

## 霧深き高原のまち 牧之原



## 福山の歴史

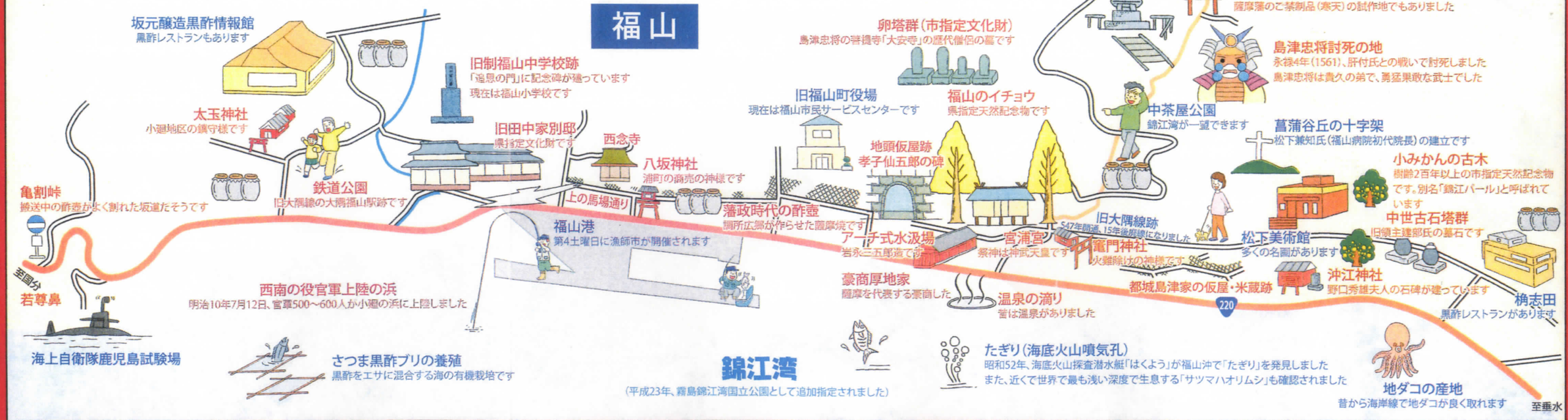
福山は16世紀中頃までは廻村といわれていましたが、永禄4年（1561）に島津氏と肝付氏が廻城の争奪戦を展開し、島津貴久の弟島津忠将が討死したことから、貴久は「災いを転じて福となす」として、地名を福山に改めたと語られています。藩政時代、日向筋が開通すると港町福山は空前の大繁栄を迎えました。日向の領地から運び込まれる大量の産物や人の往来により、浦町には大店（おおだな）といわれる豪商たちが暖簾（のれん）を連ね、城下と日向の中継地として大いに栄えました。福山の豪商たちは藩の財政を支えたほか、桜島爆発、台風、飢饉などのおり、難民たちにも救済の手を差し延ばしています。

福山の繁栄は明治・大正と続きましたが、陸上交通時代への変遷と、大正3年の桜島陸続きの影響や、複数の大型台風襲来により、港の機能も次第に低下してゆき、昔の賑やかさを失ってしまいました。

近年は、黒酢の全国的な情報発信や、黒酢を食材としたレストランの立地、海の恵みの活用などにより、また新たな時代への転化を推し進めようとしています。

廻城（仁田尾城）跡
永禄4年、島津・肝付氏の攻防がありました

## 歴史と酢のまち 福山




作成・発行　エコミュージアム福山　【池江】090-9728-1760